

フューチャー・アーティスト基金について

1 フューチャー・アーティスト基金の寄附状況

開学10周年記念事業の1つとして令和3年度に設置したフューチャー・アーティスト基金について、今年度に入りあきびネット会員各位を中心に訪問し、ご協力をお願いをしたところである。

その結果、多くの会員から趣旨にご賛同いただき、12月末までに入金があった寄附金は、約800万円となっている。

2 令和4年度における学生支援事業の前倒し実施について

基金設置当初は、令和5年度までを集中募集期間とし、令和6年度以降の事業実施と予定していたが、訪問させていただいた際に、「コロナ禍に入学した現在の3・4年生に対する支援に役立てて欲しい。」という声が多かったこと等から、今年度に事業を前倒ししたものである。

(1) 事業概要等

ア 対象者：令和4年度の学部3・4年生

イ 対象経費：美術・芸術・国際交流関連等の旅費等

ウ 支援額：上限2万円／人（支援は1人1回）

エ スケジュール：募集（7／1～12／末）、実施（～3／末）

※本事業は今年度で終了し、来年度以降は全学年対象の別事業を実施予定

(2) 事業実施状況等（12月末現在）

ア 事業計画者数 83人

イ 申請予定額 1,553,000円

美術作品の鑑賞・研究、展覧会や国際的なワークショップ等への参画、卒業制作に向けたリサーチ等に活用

3 事業効果

様々な活動を通して、新たな発見、五感の刺激、見識・人脈の広がりが生まれ、学生の制作意欲が高まる等の効果があった。学生の所感は下記のとおり。

- ・進路をより高い解像度で捉えることが出来た。
- ・アウトプットの手法を学んだ。
- ・他大学との交流が生まれた。
- ・自身の制作テーマをより深めることが出来た。
- ・人間の内面性に対する考察を深め、生きている意味を考えることが出来た。等

■事業実施状況

日程等	活動内容等	参加者	
7／29～31 青森 国際芸術センター青森、十和田市現代美術館等	美術作品研究	VA 3年31名 4年10名	事例 1
8/14～30 インドネシア（スラバヤ） ALTER-SHELTER（国際アーバンスタディーズワークショップ）	ワークショップ参画（フィールドワーク、中間発表、展示発表等）	LD 4年2名	事例 2
8/19～24 京都・瀬戸内・岡山 京都市内寺院、豊島美術館等	センスウェア研究、作品体験（京都、豊島、直島、岡山等）	MD 4年1名	事例 3
8/26～30 シンガポール 都市再開発庁、国立博物館、南洋理工大学等	建築研究	LD 4年1名	
8/22～9/10 北海道・岩手 平取町（アイヌ研究）、一関市・釜石市（産業機械等リサーチ）	企業の協力の下で研究制作（装置作りと学外イベント実施）	AR 4年1名	事例 4
9/19～21 東京 東京国立近代美術館、東京都現代美術館	美術作品研究	LD 4年1名	
9/19～25 愛知 国際芸術祭「あいち2022」	現地リサーチ	AR 3年1名	
9／21～27 金沢・滋賀 金沢21世紀美術館、滋賀県立陶芸の森	美術作品研究・インターン	MD 3年1名	
9/24～29 愛知 国際芸術祭「あいち2022」	美術作品研究	VA 4年2名	
10/6～11 愛知・静岡 瀬戸新世紀工芸館、植物園、ヴァンジ彫刻庭園美術館等	アートプロジェクト参画（ガラスグループ展）、美術作品研究	MD 4年1名	
10/6-～11 愛知・東京 国際芸術祭「あいち2022」、国立科学博物館、21-21、森美術館等	美術作品研究	MD 4年1名	
10/11～13 東京・茨城 三井記念美術館、東京都現代美術館、筑波実験植物園	美術作品研究	MD 4年1名	
10／26～28 東京 東京ビッグサイト（young textile展）	展覧会への参画	MD 4年1名	
11/9～11 青森 国際芸術センター青森、十和田市現代美術館等	卒業制作の展示方法研究	LD 4年3名	
11／14～16 東京 古代オリエント博物館、東京国立近代美術館、東京都写真美術館等	美術作品研究	AR 4年1名	
11／24～28 東京 法政大学システムデザイン学科との合同企画展等	搬入、展示、講評会、搬出等	MD 4年2名 3年6名	
12／10～11 青森 青森県立美術館、弘前赤レンガ倉庫美術館	卒業制作の展示方法研究	LD 3年5名	
1／26～1／29 東京 企業見学（ファンギャルト・電通）、ジブリ美術館、東京芸大卒展等	コミュニティーデザイン研究	CD 3年8名	
2／17～20 大阪 国立国際美術館、大阪中之島美術館、大阪天満宮等	美術作品鑑賞	MD 3年2名	
3／15～25 フランス パリ市内美術館、ヴィレンヌ・レ・ロシュ工房、ドルドーニュ等	箴職人から技術伝承	VA 4年1名	

■専攻別状況

専攻名	3年	4年
AR(アーツ&ルーツ専攻)	1	2
VA(ビジュアルアーツ専攻)	31	13
LD(景観デザイン専攻)	5	7
MD（ものづくりデザイン専攻）	9	7
CD(コミュニケーションデザイン専攻)	8	
	54	29



第 6 回 国際ワークショップ「Alter-Shelter」～「Interstitial Occupation 間の占有」～

私は 2022 年 8 月 18 日～24 日にインドネシア共和国スラバヤ市で行われた国際ワークショップ「Alter-Shelter」に参加しました。第 6 回目となる今回は「Interstitial Occupation 間の占有」をテーマにしたものでした。スラバヤの集落のひとつであるタンバクバヤン・カンポンを舞台としワークショップに取り組みました。私はフィールドワークを重ねる上でインドネシアの人々はものを無駄にせず何かに見立てて日常的に活用する術を持っていると感じました。私が行ったプロジェクトの対象地はタンバクバヤン・カンポンにあった空き地です。活用する術を持っている人たちが空間を持て余していて、疑問に思い、また何かに使おうとしているところなのかもしれないと思い「間」と通ずるを感じました。そこで空き地の周辺から現在は使われていない過去の資材(タイヤ、竹、ロープなど)を集めて敷地に構造物を制作しました。その構造物は特に用途を指定せず周りの住人に自由にレイアウトや用途を展開してもらいたいという意図で作り、実際に住人を集めて「あなたならこの場所をどう使いますか」という質問を投げかけディスカッションを行いました。過去の資材を現在で構築し未来に用途を託す。住人たちの交わる場となることから交錯という意味の《Heterology》をタイトルとしてつけました。



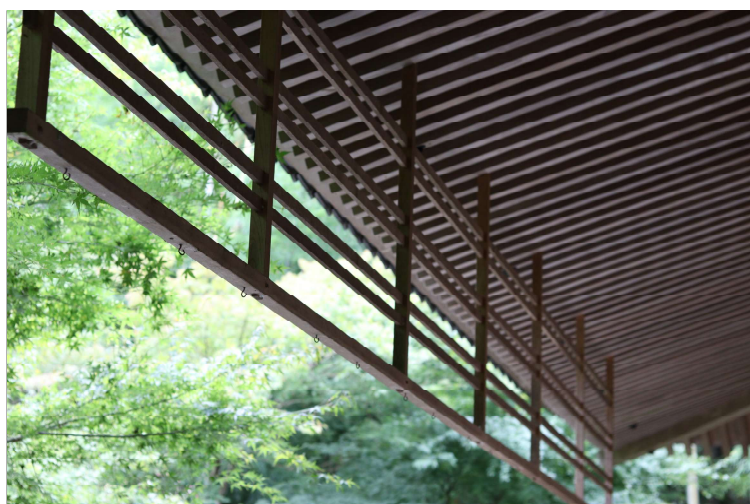
京都、豊島へと行き、卒業制作のためにセンスウェアのリサーチをさせていただきました。

古くから美しいとされているもの、時間を豊かに過ごすためのもの、空間の音をたのしむものなど、画面の中で見るのではなく、実際に目で見て、聴いて、触れることができて、より自分の作りたいもののイメージを深めることができました。

実際に体験する機会がいただけて、大変良い経験となりました。ありがとうございました。

*-----

191011 壱ッ石 涼里



岩手県 釜石 フィールドワークについて

2022年9月初旬、日本で初の高炉である岩手は釜石の「橋野高炉跡」へと
リサーチに訪れた。

目的は、金属を溶かすキノコ型溶鉱炉「イシロ」を制作するにあたり
技術的な工夫や歴史的背景を学ぶことだ。

橋野高炉は幕末、19世紀に生まれたもので当時の溶鉱技術を
超えるものを作りたいという創意工夫と執念が伝わってくるものだった。

